

経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援 事後評価結果の総括

平成 30 年 3 月 9 日

経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援プログラム委員会

経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援において、5年間の補助期間を終了した23大学（スーパーグローバル大学創成支援事業に採択された19大学を除く）について、事後評価を実施した。なお、スーパーグローバル大学創成支援事業に採択された19大学については、平成29年度に実施されたスーパーグローバル大学創成支援事業の中間評価の中で一体的に評価を実施することとなっている。

評価結果は、S（「目的は十分に実現された」）が1件（全体のうち4%）、A（「目的は概ね実現された」）が13件（同57%）、B（「目的はある程度実現された」）が9件（同39%）とした。なお、本事業においてはAが標準的な評価である。この結果を踏まえ、各大学は、当初の計画に沿って目的を概ね実現し、期待された成果を挙げたと評価出来る。

各大学において、採択時に設定した目標の達成に向け、それぞれの特色に応じた取組を展開した結果、選定42大学において、卒業時における海外留学経験者数は約1.8倍（平成23年度：6,578名→平成28年度：11,577名）に、卒業時に各大学が定める外国語力基準を満たす学生数は、1.6倍（平成25年度5,552名→平成28年度8,613名）に増加した。また、外国語による授業科目数は、事業開始年度と比べ約2.4倍（平成24年度8,904科目→平成28年度21,191科目）に増加するなど、着実な成果が得られている。

事後評価を通じて共通して見られる主な傾向や進捗は以下のとおりである。

- 大学の戦略的な目標として教育研究のグローバル化推進を明確に位置付け、シラバスの充実や多言語化、ナンバリングの導入、アクティブ・ラーニングの推進など、カリキュラム整備を含めた学修課程の組織化が図られている。
- ダブル・ディグリー・プログラムの立ち上げや海外インターンシップのほか、国際ボランティア体験制度の導入やルーブリック法を用いた学生の達成レベルの評価、現地主義に基づく海外での事務所開設など、大学の特色に応じた取組が展開されている。
- 教員人事の国際公募やファカルティ・ディベロプメントの実施など教員のグローバル教育力向上の取組が実施されている。
- 入学前のオープンキャンパスの段階から留学を意識させる取組や、渡航前・帰国後のサポート、留学ポータルサイトの開設、学生の留学に向けた経済的支援の強化等の取組により、日本人学生の留学を促進するための環境整備が進められている。
- TOEFL等英語外部試験の入試への活用のほか、全学的なプレイスメント・テストの実施、習熟度別クラス編成、語学力向上度の定期的な測定や外国語による論文作成の個別指導を行う大学など、語学力を向上させるための入学時から卒業時までの一体的な取組が進められている。
- 事業終了後の状況分析を踏まえた体制整備や自己資金の確保など、多くの大学で取組の継続性を確保するための計画が進められており、今後の展開及び高等教育の国際化への貢献が期待される。

目標の達成状況については、外国語による授業の実施率や外国人教員等比率において目標値を上回っている一方で、「外国語力スタンダードを満たした学生数」や「単位取得を伴う海外留学経験者数」等において進捗は見られるものの、目標値には到達しなかった大学が見受けられることから、達成度が十分でなかった項目については、今後の課題として更なる努力や工夫を図っていくことが必要である。

本事業は、大学教育のグローバル化の推進を目的として、若い世代の「内向き志向」を克服し、国際的な産業競争力の向上や国と国の絆の強化を基盤として、グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍出来る「人財」の育成を図ったという点で、非常に大きな意義のあるものであった。5年間という限られた補助期間において、各大学がそれぞれ挑戦的な目標を掲げ、その実現に向けて多くの困難を伴いつつも、上述の成果を挙げたことは評価に値する。

今後、これらの大学がこれまでの取組を継続するのみならず、国内外の大学や産業界との連携、また国内外への情報発信等を通じて、我が国の高等教育の更なる国際化の発展に貢献していくことが期待される。

経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援 事後評価結果一覧

【タイプA(全学推進型)】

大学名	設置区分	総括評価	評語
お茶の水女子大学	国立	A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
中央大学	私立	A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
同志社大学	私立	A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。

【タイプB(特色型)】

大学名	設置区分	総括評価	評語
埼玉大学	国立	B	取組状況、目標の達成状況が事業計画をやや下回っているが、事業目的はある程度実現された。
一橋大学	国立	A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
東京海洋大学	国立	A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
新潟大学	国立	B	取組状況、目標の達成状況が事業計画をやや下回っているが、事業目的はある程度実現された。
福井大学	国立	A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
神戸大学	国立	A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
鳥取大学	国立	A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
山口大学	国立	A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
長崎大学	国立	B	取組状況、目標の達成状況が事業計画をやや下回っているが、事業目的はある程度実現された。
愛知県立大学	公立	B	取組状況、目標の達成状況が事業計画をやや下回っているが、事業目的はある程度実現された。
山口県立大学	公立	A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
北九州市立大学	公立	B	取組状況、目標の達成状況が事業計画をやや下回っているが、事業目的はある程度実現された。
共愛学園前橋国際大学	私立	A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
神田外語大学	私立	A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
亜細亜大学	私立	B	取組状況、目標の達成状況が事業計画をやや下回っているが、事業目的はある程度実現された。
杏林大学	私立	B	取組状況、目標の達成状況が事業計画をやや下回っているが、事業目的はある程度実現された。
昭和女子大学	私立	S	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を上回る成果をあげており、事業目的は十分に実現された。
武蔵野美術大学	私立	B	取組状況、目標の達成状況が事業計画をやや下回っているが、事業目的はある程度実現された。
愛知大学	私立	A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
京都産業大学	私立	B	取組状況、目標の達成状況が事業計画をやや下回っているが、事業目的はある程度実現された。

(参考)総括評価の基準

評価	評語
S	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を上回る成果をあげており、事業目的は十分に実現された。
A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
B	取組状況、目標の達成状況が事業計画をやや下回っているが、事業目的はある程度実現された。
C	取組状況、目標の達成状況が事業計画を下回っており、事業目的はあまり実現されていない。
D	取組状況、目標の達成状況が事業計画を大きく下回っており、事業目的はほとんど実現されていない。